

ENVIRONMENTAL REPORT 2002

環境活動報告書 2002

株式会社 西武百貨店



カラマツの幼いまつぼっくり(八ヶ岳高原海の口自然郷にて)

ごあいさつ

お客さまとお取引先を結ぶ小売業の立場から、 地域社会にやさしい環境経営を目指してまいります

環境問題に対する関心の高まりとともに、社会的な要請も含めて企業の責任が重くなっていることを真摯に受け止めております。これは地球規模の視点に立った循環型社会を目指す法的整備に加え、成熟化が進むお客さまのライフスタイルや生活に密着した一部企業の不祥事が不安感をかりたてていることも背景にあります。とりわけこの1年は、急速な変化に対応しながら信頼を獲得していくことの難しさを痛感いたしました。

西武百貨店は1999年4月にISO14001規格の認証取得以来、地道に環境活動を推進してまいりました。ISOマネジメントシステムの基盤をつくっていくうえで、より迅速にお客さまの意識変化をとらえることを心がけております。そして年々、企業戦略の根幹に環境活動を組み入れる重要性を感じております。

いうまでもなく小売業はお客さまとお取引先を結ぶ接点に位置しており、お客さまの意識・行動変化をいち早く感知するセンサーです。その情報をメーカーなどの川上にあたるお取引先と共有し、協働することでよりよい商品やサービスをお客さまに提供する役割を担っております。

当社では2000年の『サービスマニア宣言』以来、全社をあげて「お客さまにとっての最善をつくす企業」に向けて邁進しております。当然環境活動も大きな柱であり、体質風土にまで浸透させていこうと考えております。同時に環境活動を推進することが、誇り高きサービスマニアを目指す社員一人ひとりへの信頼と共感を育み、社会的な企業として責任を果たすことになると認識しております。

2002年は、特にお客さまにより近づく意味で、現場フロントを中心に変革を図っていきたくと考えています。とりわけ

環境活動においては従来型の法遵守を基本とした目的目標はもちろんのこと、中期目標のなかでも「環境に配慮した商品提案の推進」に重点を置いていきます。そして2002年度の計画では、お客さまの視点に立った「販売・表示方法の見直し」に力を入れ、さらにお客さまの声に応える商品開発の体制づくりを構築していきます。また地域に根ざした環境活動を推進していくうえで「店舗独自の社会貢献目標」を各店ごとに設定し、より自発的・主体的な活動を通じて地域のお客さまや自治体、地元企業の方々と協働してまいりたいと考えております。

そして最後に忘れてはならないことが、地道に継続する社員一人ひとりの毎日の積み重ねです。これは環境への投資以上に大切なことだと思っています。そのために社員の環境活動に対する関心が絶えることなく、あるいは惰性に流されないように気をくばってまいります。社員の意識を常に啓発し、参加意欲の向上を図っていく工夫と運動化を飽きずに続けてまいります。この課題については昨年10月に実施した全社員向けアンケートという成功事例があり、100を超える提案があがってきました。この結果を即座に環境活動のプログラムに組み込んでいくことで、社員のやる気や動機付けにつながりました。こうした提案活動は、活力を高めるうえで大変に役立っております。

今後とも環境活動は、お客さまに近い現場をはじめとして全社員でミッション(役割期待)を共有し、ビジョン(地球にもお客さまにもやさしい企業)を念頭に粘り強く推進してまいります。そしてスピードと質的向上の両面から経営的要請と現場のニーズを結びつけた活動成果を上げていく所存です。皆さまのご理解とご支援をよろしくお願いいたします。



株式会社 西武百貨店
代表取締役社長

土屋内 幸夫

環境方針

[基本理念]

西武百貨店は、環境にやさしい企業活動を心がけ、お客さまや地域・社会と共に、豊かな社会づくりに取り組みます。

[行動指針]

1. 「お客さま」と「お取引先」を結ぶ「小売業」として、率先して環境問題に取り組みます。
2. 「ごみを出さない」「再利用・リサイクルの促進」に重点をおいた目標を定め、それを達成するために仕事のしかたや仕組みを見直し、更なる改善を推し進めます。
3. 社員一人ひとりが環境問題に自発的に取り組むために教育活動を展開し、快適な環境の提供を通じて、お客さまへのサービス向上と社会への貢献に誇りをもつ企業風土を築きます。
4. 法規制の遵守はもとより、挑戦的な自主基準をつくり、常に活動の向上を心がけます。

この環境方針は、全社員に周知するとともに、社外にも公開します。

制定：1998年9月1日

改訂：2001年4月1日

2002年度 西武百貨店の環境活動

6つの柱と10の取り組み

1 循環型社会の推進	① 廃棄物削減 ② リサイクルの向上
2 省資源	③ 紙類使用量削減 ④ 水資源使用量削減
3 温暖化対策	⑤ 電力使用量削減 ⑥ 重油ボイラーの見直し ⑦ 車両による環境負荷低減
4 環境商品の拡大	⑧ 環境に配慮した商品提案の推進
5 リスクマネジメント	⑨ リスクマネジメントの強化
6 社会貢献	⑩ 地域社会との共生

C O N T E N T S

ごあいさつ.....	1
環境方針	
2002年度 6つの柱と10の取り組み ...	2
西武百貨店エコガイド	3
環境商品の提案	5
店頭表示の基準化.....	7
循環型社会のショッピング.....	8
物流改革	9
生ごみリサイクル.....	10
お客さまの声を形に.....	11
どなたにとっても安心・安全な店.....	12
環境活動を通じた社会貢献.....	13
外商事業部の環境ビジネス.....	15
環境目標と実績<1997-2000年度>.....	17
<2001-2002年度>	18
環境会計<2000-2001年度>.....	19
ISO14001第1回更新審査報告.....	21
環境活動のあゆみ<1990-2001年度> 会社概要	22

「環境活動報告書 2002」の対象範囲

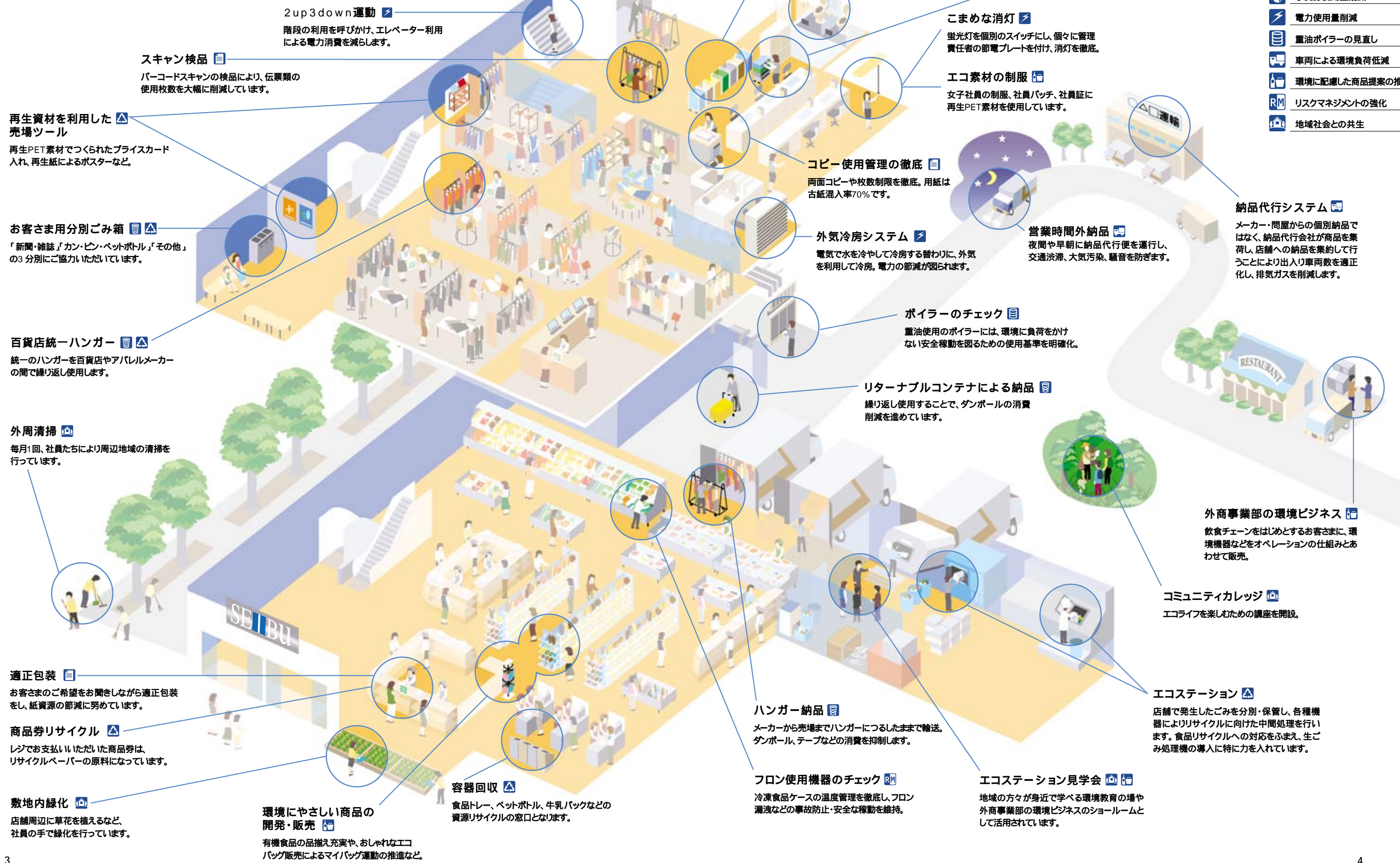
- 【主な対象期間】
2001年3月～2002年2月
(一部、それ以前および以降の情報を含んでいます)
- 【記載内容の範囲】
西武百貨店 全店・全事業所

Cover Photo
撮影 吉田 信

八ヶ岳高原海の口自然郷は、西武百貨店関連会社である(株)八ヶ岳高原ロッジが運営する高原リゾートです。ホテル「八ヶ岳高原ロッジ」、国内外のアーティストの演奏が楽しめる「八ヶ岳高原音楽堂」などの施設をはじめ、八ヶ岳山麓に広がる四季折々の豊かな自然にふれることができます。

西武百貨店エコガイド

- 廃棄物削減
- リサイクルの向上
- 紙類使用量削減
- 水資源使用量削減
- 電力使用量削減
- 重油ボイラーの見直し
- 車両による環境負荷低減
- 環境に配慮した商品提案の推進
- リスクマネジメントの強化
- 地域社会との共生



2up3down運動
階段の利用を呼びかけ、エレベーター利用による電力消費を減らします。

スキャン検品
バーコードスキャンの検品により、伝票類の使用枚数を大幅に削減しています。

再生資材を利用した売場ツール
再生PET素材で作られたプライスカード入れ、再生紙によるポスターなど。

お客さま用分別ごみ箱
「新聞・雑誌」「カン・ビン・ペットボトル」「その他」の3分別にご協力いただいています。

百貨店統一ハンガー
統一のハンガーを百貨店やアパレルメーカーの間で繰り返し使用します。

外周清掃
毎月1回、社員たちにより周辺地域の清掃を行っています。

適正包装
お客さまのご希望をお聞きしながら適正包装をし、紙資源の節減に努めています。

商品券リサイクル
レジでお支払いいただいた商品券は、リサイクルペーパーの原料になっています。

敷地内緑化
店舗周辺に草花を植えるなど、社員の手で緑化を行っています。

環境にやさしい商品の開発・販売
有機食品の品揃え充実や、おしゃれなエコバッグ販売によるマイバッグ運動の推進など。

容器回収
食品トレー、ペットボトル、牛乳パックなどの資源リサイクルの窓口となります。

社員用分別ごみ箱
「ペットボトル」「ビン」「カン」「ビニール・プラスチック」など7つに分別。

洗面所の節水
水道に取り付けた節水コマや女子トイレに設置した擬音装置で水資源を節減。

リサイクルボックス
片面使用済みのコピー用紙や新聞・雑誌などを分別しリサイクル。

こまめな消灯
蛍光灯を個別のスイッチにし、個々に管理責任者の節電プレートを付け、消灯を徹底。

エコ素材の制服
女子社員の制服、社員ハッチ、社員証に再生PET素材を使用しています。

コピー使用管理の徹底
両面コピーや枚数制限を徹底。用紙は古紙混入率70%です。

外気冷房システム
電気で水を冷やして冷房する代わりに、外気を利用して冷房。電力の節減が図られます。

ボイラーのチェック
重油使用のボイラーには、環境に負荷をかけない安全稼働を図るための使用基準を明確化。

リターナブルコンテナによる納品
繰り返し使用することで、ダンボールの消費削減を進めています。

営業時間外納品
夜間や早朝に納品代行便を運行し、交通渋滞、大気汚染、騒音を防ぎます。

納品代行システム
メーカー・問屋からの個別納品ではなく、納品代行会社が商品を集荷し、店舗への納品を集約して行うことにより出入り車両数を適正化し、排気ガスを削減します。

外商事業部の環境ビジネス
飲食チェーンをはじめとするお客さまに、環境機器などをオペレーションの仕組みとあわせて販売。

コミュニティカレッジ
エコライフを楽しむための講座を開説。

エコステーション
店舗で発生したごみを分別・保管し、各種機器によりリサイクルに向けた中間処理を行います。食品リサイクルへの対応をふまえ、生ごみ処理機の導入に特に力を入れています。

ハンガー納品
メーカーから売場までハンガーについたままを輸送。ダンボール、テープなどの消費を抑制します。

フロン使用機器のチェック
冷凍食品ケースの温度管理を徹底し、フロン漏洩などの事故防止・安全な稼働を維持。

エコステーション見学会
地域の方々が身近で学べる環境教育の場や外商事業部の環境ビジネスのショールームとして活用されています。

環境に配慮した商品を増やしています

信頼される環境商品をご提案する仕組み

独自の選定基準で「環境商品」を拡大

西武百貨店では、環境への影響に配慮した商品を、より多くお届けすることを百貨店の使命と考え、独自の「環境商品」の基準を定めています。

この基準に基づいた選定を行うため、仕組みの中心となって活動しているのが統合商品部環境管理委員会です。ここでは、衣料品・雑貨・食品・インテリアなど、領域の異なるバイヤーが集まり、「環境商品」としてお客さまの満足につながる商品かどうかを厳しく議論します。それに向けて、バイヤーや開発スタッフは、日ごろからお取引先企業へのご理解促進に努め、共同で「環境商品」の品揃えを進めています。アイテム数は、2001年度末には231アイテムになり着実に拡大しました。

今後は、廃棄までを含めた商品のライフサイクルに一層の配慮を行い、「環境商品」のレベルアップを図っていきます。

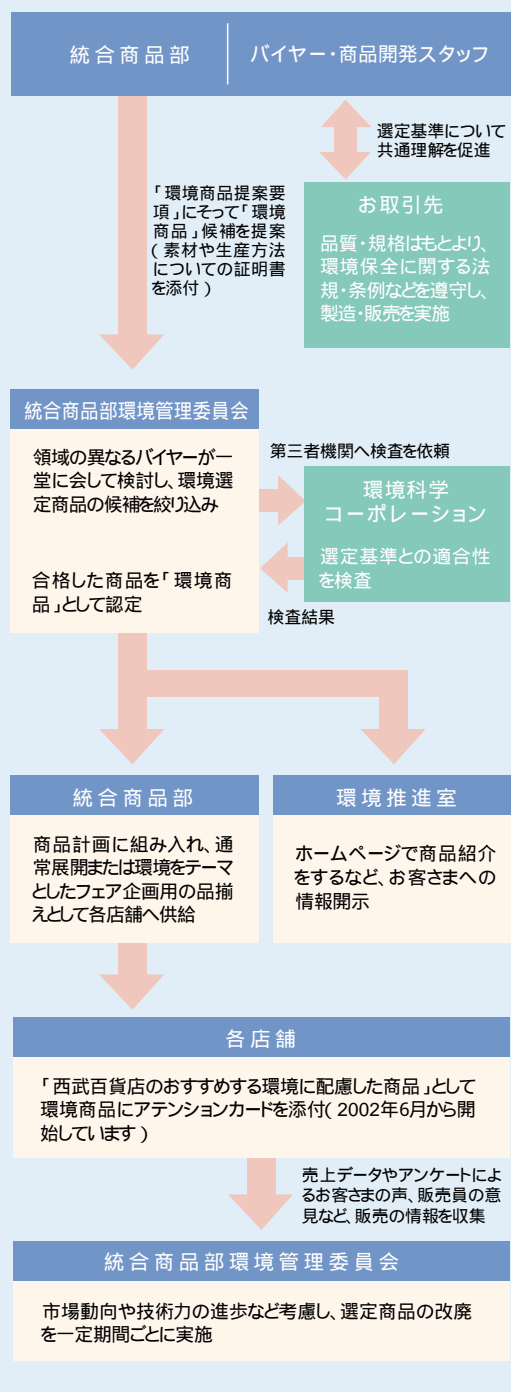
第三者機関によるチェック体制

「環境商品」の品質を保証し、お客さまに信頼性の高い商品をご提供するために、選定にあたって第三者機関による検査を実施しています。西武百貨店の関連会社である(株)環境科学コーポレーション*に依頼し、そこで合格判定が出た商品だけが、「西武百貨店の環境に配慮した商品」として売場に並べられます。

西武百貨店の環境商品選定基準

- 原材料や生産工程が低負荷であるもの
低負荷の原料、添加物の抑制・無添加、化学処理の省略、有機肥料の使用、特定フロン¹の排除など。
- 再生素材を使用しているもの
商品への再生素材混入率が古紙50%以上、再生アルミ60%以上、再生ガラス55%以上、再生プラスチック40%以上。パッケージにおいても同様。
- 再生可能な商品であるもの
リサイクル困難な点の改良がある、複合素材から単一素材へ変更したものの。
- 省資源・省エネ商品であるもの
詰め替え商品、簡易包装化、商品自体に省資源・省エネ効果がある、モデルチェンジの長期化、商品・パッケージに廃材や間伐材使用、流通段階で省エネ効果などもつもの。
- 環境保全を促進するもの
水質・大気・土壌保全の効果があるもの、生態系攪乱要因を排除しているもの。
- 環境負荷に関する表示のあるもの
LCA表示、廃棄方法の表示、エコマーク表示があるもの。
- 環境保全に積極的な企業により製造された製品であるもの
環境保護基金への参加、「ISO14001」取得企業など。

「環境商品」の選定から販売まで



* 食品の衛生、商品の品質管理、環境改善エンジニアリングの分野を中心に活動している総合コンサルティング会社。西武百貨店に関しては、環境側面の把握調査をはじめ、食品衛生や水質検査、計量機精度試験、商品の品質試験などを行っています。1972年設立、西武百貨店関連会社。(2000年1月21日「ISO9001」を取得)

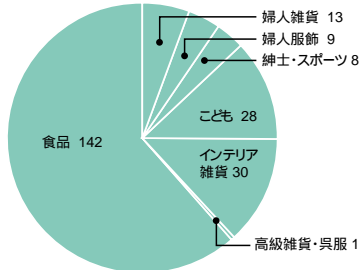


紳士服売場では、ウォータートリートメント対応の素材を使用した「五大陸」の「エコ」スーツや、吸汗・速乾性にすぐれた「ひやっどクール」素材のシャツなど、省エネ時代のオフィスでも快適に仕事ができるビジネスウェアを取り揃えています。



赤ちゃんにやさしい衣類の充実はお母さま方の切実な願い。写真の商品は、アロエエキスやヒバ油を使用し、保湿効果やアンモニアのにおいをカットする消臭効果があります。ヒバ油は伐採クズから採られ、リサイクルを通じて生まれた環境にもやさしい商品です。

環境商品 231アイテム



有機栽培の素材にこだわって開発した有機JAS認定の食品ギフトは、生産工程や包材なども環境選定基準で吟味。大切な方への贈り物として人気があります。(写真左から、ロイヤルマゴ/有機醤油、盛田/有機稲庭うどん、新井園本店/有機栽培茶)

Voice

環境Webアンケートでは7,716名のお客さまがお答えくださいました
商品・サービス・店づくりに役立てていきます

西武百貨店をよくご利用いただいているお客さまの会員組織「クラブ・オン」。その会員の皆さまにご協力いただき、2001年10月に環境とショッピングに関する意識調査を実施しました。そのなかから、品揃えや売場づくりについてお寄せいただいたご意見を紹介します。

実施期間

2001年10月11日～16日(6日間)

調査方法

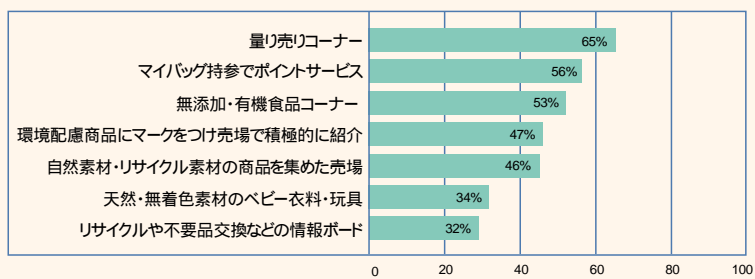
クラブ・オンWeb通信(メールマガジン)とホームページ上で公募し、回答フォームの返信により回答

回答数

7,716名

回答率9.2%(回答数/メール配信数)

百貨店として実施・充実したほうが良いと思われること(複数回答)



アンケートでは、環境配慮商品の表示や素材のアピールが不十分であるとのこと指摘が、回答いただいた約半数の方々から寄せられました。売場でのマークやPOP表示、環境をテーマとした売場づくりなどの充実をもっと進めていかなければと反省させられました。また「環境に配慮した商品を購入する際の通常商品との価

格差」については、ファッション性の高さや安心できる素材、確かな機能性があれば、価格が10%ほど高くても構わないという声が目立ちました。多少値段が高くても安心・安全の面で信頼できる。そして単なる環境配慮商品ではなくデザインやセンスのよい商品を百貨店に望んでいらっしゃるお客さまの姿がつかえました。

求められる情報を正しく伝えるために 店頭表示の基準化を進めています

安心してご利用いただける売場をつくる活動

生鮮食品の適正表示を管理する 「商品適正表示小委員会」

2002年2月に発足した「商品適正表示小委員会」では、本部・店舗・関連事業部門が一体となって、精肉・鮮魚・青果・水産加工品の4領域に関する表示の統一ガイドラインをつくりました。プライスカード、包装ラベル、POPなどの表示を対象に、法遵守の枠内にとどまらず、お客さまがわかりやすく安心してお買い物をするために必要な表示内容を検討しました。お取引先のご理解を得ながら基準化を図り、店頭での維持・管理を実施しています。

基準はJAS法の基準をふまえ、精肉・鮮魚・水産加工品で7項目、青果で5項目にわたる自主基準を加え、俗称による表示やあいまいな表記を避け、お客さまの視点に立った的確な表現、信頼の向上につながる項目の表示を心がけました。

また、各店舗の中元ギフトセンターでも、「安心してお選びいただけるギフト」のご提案を行うとともに、食品ギフト商品の産地・素材・賞味期限・配送方法などを表示しています。

トレーサビリティ確保への取り組みと 店頭表示の第三者チェック

「適正表示」を行うには、その食品の産地や銘柄、漁獲方法や保存といった表示内容そのものが正しく管理され、伝達される必要があります。そのため、原材料をはじめとする食品の履歴情報を食品といっしょに流通させる仕組み(トレーサビリティ・システム)の整備を、現在お取引先とともに進めています。

また、各店舗で表示基準が守られているかどうかについては、(株)環境科学コーポレーションに委託し、月に1度、社外の目でチェックしています。

お客さまの立場に立った 「アレルギー表示」を実施

2002年4月から法律によって「容器包装された加工食品」の「アレルギー表示」が義務づけられました。これに先駆けて、西武百貨店では2001年9月から取り組みを開始しました。卵・乳・小麦・そば・落花生の5品目について、法律で義務づけられてはいない、店内厨房で製造されたお惣菜などの量り売り商品やパンなどの個売り商品にもPOPで表示しています。また店内のレストランでは、食物アレルギーが心配なお客さま向けに、5品目使用の有無を記載したメニュー表をご用意しています。

西武百貨店の適正表示基準(例:精肉)

1	名称	内容を示す一般的な名称を使用する
2	畜種	牛、豚、鶏肉のほか猪、馬肉、家禽肉などの表示を明確にする
3	産地	国産品は国産である旨を明示、輸入品は原産国名を正しく表示する
4	銘柄	牛肉、豚肉、鶏肉の銘柄を、証明書との照合による正しい銘柄名で表示する
5	部位	小売品質基準にそった部位を規格に準じ表示する
6	輸入	輸入精肉(牛、豚、鶏)は国名のみを正しく表示する
7	冷凍	輸入精肉の冷凍流通商品は明確に表示する

ラベル表示例



分野ごとの流通特性をふまえながら、トレーサビリティの仕組みづくりに挑戦しています。写真は精肉の産地・銘柄・部位を示す証明書と店頭のPOP。



アレルギーをお持ちのお客さまにも、安心してお惣菜をご購入いただけるようになりました。

ショーケースで5品目使用の有無を明記したメニューをご用意していることをお知らせ。



循環型社会のショッピングのあり方をお客さまといっしょにつくっていきます

「用途に合った適正包装」は百貨店の大きなテーマ

各レジに全店共通の「簡易包装マニュアル」を備え、お客さまのご用途に応じた適正包装に取り組み始めたのは1995年のこと。包装紙と紙製手付袋を使用した完全包装から、ポリ手付袋による簡易包装の推進へ、さらに2000年度はマイバッグの販売へと取り組んできました。百貨店の象徴ともいえる「包み紙」を使わないというこの運動を継続できたのも、お客さまからのご理解・ご協力、そして店頭でたくさんの率直なご意見をいただいたおかげです。

2001年度には、環境活動をスタートした1997年度に比べて包装紙・紙袋の使用量が211トン少なくなっています。また、「もっとお客さまに簡易包装の取り組みをお伝えしたい」という売場社員からの声で、10月の「環境にやさしい買い物キャンペーン」期間中、「包まないという、地球へのおもいやり。」というメッセージ入りシールを包装にお付けする取り組みも行いました。

2002年度は、「簡素でありながら百貨店らしいセンスを感じさせる包装」をテーマに、環境にやさしく快適で楽しいショッピングを実現できる簡易包装のあり方に挑戦していきます。



1995年の簡易包装キャンペーンで使用した葉っぱ型メッセージールが社員の声を受けて復活。お客さまとのコミュニケーションもスムーズに。こうした活動の実績に評価をいただき、東京都主催の「第1回生活文化局長賞」を受賞しました。



若い人でも持てるおしゃれで機能的な“マイバッグ”をつくらうと企画された「オリジナルエコロジーバッグ」。ハンドバッグ売場と食品売場で販売しています。

「買う・使う・資源に戻す」循環型の暮らしに向けた容器回収

容器回収については、高知西武とだるまや西武の2店舗でも2001年度からペットボトルの回収を開始しました。現在は10店舗で実施している回収を、徐々に拡大していきます。

継続的に効果を上げている「お客さま向け分別ごみボックス」や「社員用分別ごみボックス」とともに、今後も地域や各自治体と連携して分別回収・再資源化の促進に取り組んでいきます。



店舗容器回収コーナー（写真は岡崎西武）

商品券も紙資源としてリサイクル

全店のレジで受け取る商品券は、年間で約50トン。従来は焼却処分されていましたが、2001年7月からリサイクルがスタートしました。商品券は(株)ビジネスシステムエージェンツ(BSA)を通じてリサイクル工場へ送られ、製紙原料となってトイレトペーパーや封筒などのリサイクル製品に生まれ変わっています。

*「小売業」の経理分野を中心に総合事務センター業務を行っている西武百貨店関連会社。商品券のリサイクルはBSAと日本通運(株)が共同で行っている売上金管理サービスの一環です。

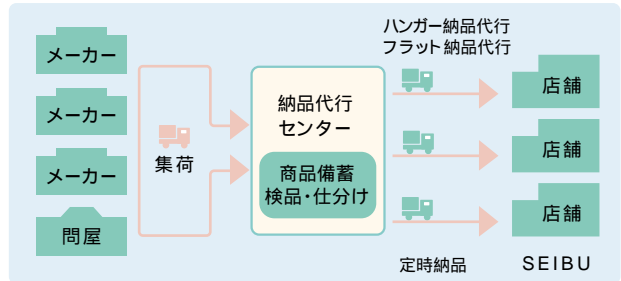
容器回収を行っている店舗			
池袋西武	ペットボトル	八尾西武	牛乳パック・ペットボトル・トレー
シブヤ西武	ペットボトル	高槻西武	牛乳パック・ペットボトル・トレー
船橋西武	牛乳パック・ペットボトル・トレー	つかしん西武	牛乳パック
		だるまや西武	牛乳パック・ペットボトル・トレー
岡崎西武	牛乳パック・ペットボトル・トレー・アルミ缶	ほんきん西武	トレー
		高知西武	ペットボトル

店頭を支える物流の改革に お取引先とともに取り組んでいます

「営業時間外(夜間)納品」の実施で 「納品代行システム」がより効果的に

お客さまのニーズをとらえたタイミングのよい品揃えを実現するために、西武百貨店ではお取引先と協力して物流の改革に取り組んでいます。納品車両数の削減を図り、交通渋滞の緩和や大気汚染・騒音の軽減に役立てることが目的です。

1995年から本格的に導入を開始した「納品代行システム」によって、各お取引先から店舗への個別納品は大幅に減り、現在では通常稼働のお取引先の約75%、納品総物量の約80%がこのシステムを利用しています。定期的な納品便を納品代行センターから運行し、運送車両数を適正化しています。2001年10月から池袋西武で、この効果をさらに高める「営業時間外納品」を開始しました。夜間や早朝に決められた時間帯で納品を行い、納品口の混雑による周辺道路の渋滞や排気ガスを防止しています。池袋西武ではピーク時の車両数が1997年度の1日あたり約900台に対して2001年度は約580台に減りました。



営業時間外に納品された商品は、開店時間までに売場に品出しされます。売場のスタッフがお客さまの応対に専念できる時間が増えたほか、営業時間中に商品を積んだ台車が店内を通ることなくなり、安全でくつろげる店内環境へと改善されました。

繰り返し利用できる梱包や輸送方法で ごみを出さない配送を

ごみの発生原因の一つである梱包についても改善を図っています。衣料品をハンガーにかけて輸送する「ハンガー納品」は、1995年のスタート以来、参加お取引先の拡大とともにダンボールの廃棄量を大幅に減らしてきました。使用するハンガーについても「百貨店統一ハンガー^{*}」の利用に努め、プラスチックリサイクルを促進しています。

ダンボールで納品する商品についても(フラット納品)、従来のダンボールから「オリコン(折りたたみコンテナ)」へと切り替えを進めつつあります。



オリコン(折りたたみコンテナ)は、納品後は折りたたんでコンパクトに。お取引先に返却して、繰り返し利用されます。



^{*}日本百貨店協会、日本アパレル産業協会などが推進しているハンガー再利用システム。出荷から店頭までを1本のハンガーでまかない、繰り返し利用します。

Voice

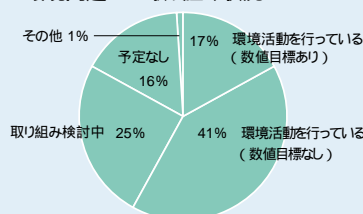
お取引先各社に環境アンケートをお願いしました

実施期間 2001年6月29日～7月31日 回収率 74%(43社)

西武百貨店には、衣料・雑貨・食品などの各領域にわたり、主要お取引先と課題を共有し相互の成長を図る趣旨で設立された「S-NET21」という企業ネットワークがあります。環境活動も「S-NET21」で協議される大きなテーマの一つです。

2001年は参加企業(正会員)68社にアンケートを実施し、今後の環境活動へのより一層の取り組みをお願いしました。

環境問題への取り組み状況



西武百貨店との環境活動で重点的に取り組んでいきたい分野 <複数回答>

物流体制に関する取り組み	12社
自社の環境配慮商品の販売	9社
容器・パッケージの共同開発	7社
環境配慮商品の共同開発	6社
リサイクル・リユースの取り組み	4社
廃棄物処理に関する取り組み	2社
その他	4社

ごみを出さない企業活動へ一歩前進 「生ごみリサイクル」が本格的に始まりました

店舗から出る生ごみを 店舗で処理できる体制づくり

地域社会との共生を基本方針として、住民や自治体に廃棄物処理の負担をかけない店舗運営を目指しています。

1999年以降は、新規出店の際、廃棄物の減量や中間処理を敷地内で行えることを前提としてきました。東戸塚西武(1999年オープン*1)では1日に発生する約2トンのごみを14種に分別し、廃棄物処理専用施設「エコステーション」でリサイクルに向けた中間処理や最終処分までの保管を行っています。例えば、生ごみは生ごみ処理機によってコンポスト(たい肥)に、発泡スチロールは溶融機でプラスチック原料に、再生可能なミックスペーパーは圧縮して貯留し製紙原料として送り出されます。また、缶やビニール、ダンボールなども圧縮し、コンパクト輸送ができるように減容を行っています。2000年にオープンした岡崎西武*2でも、生ごみのコンポスト化をはじめとする減量化・再資源化を行っています。

2001年11月には既存店の生ごみ処理施設第1号が稼働し始めました。全店舗のなかでもっとも生ごみ排出量が多い池袋西武(1日約3.5トン)に「エコステーション」がつくられ、第1期として7台の生ごみ処理機を導入。レストランや社員食堂から出る生ごみをコンポスト化しています。2002年、2003年にも増設を行い、規模・質ともに処理能力を上げていきます。これらの施設は、学校の環境教育の場として、また行政や企業、各種団体の皆さまによる環境機器の見学の場としても活用されています。

また、売れ残りによる廃棄を少なくする販売方法についても、営業時間に見合った適量の品揃えやばら売り・量り売り(食品では10gから)などを、お取引先と協力して行っています。

地域農家との連携で実現した 池袋西武の「生ごみリサイクル」

池袋西武の生ごみ処理は、地域農家とのあいだで循環する仕組みになっています。できあがったコンポストは、埼玉県で野菜の有機栽培を行っている農家に無償で提供され、その農家で栽培された野菜が池袋西武の青果売場で販売されます(販売のスタートは2002年夏)。安全でおいしい野菜を求めるお客さまのニーズに応える小売業ならではのリサイクルです。生ごみ処理機が稼働している他の店舗については、東戸塚西武では肥料会社へ原料として出荷、岡崎西武では山形県のさくらんぼ生産農家へ提供しています。



池袋西武の「エコステーション」。全店の生ごみ総量の18%を排出する池袋西武から、既存店の処理機導入がスタート。

生ごみ処理機導入計画の推進 (単位:t/年)

店舗(稼働開始)	処理機によるリサイクル量	発生抑制・減量
東戸塚西武(1999.10)	244	
岡崎西武(2000.9)	252	
池袋西武(第1期)(2001.11)	107	
2001年度末 全社合計	603	340
2001年度リサイクル等実施率		943 12.9%

*1 神奈川県横浜市のショッピングセンター「オーロラシティ」の核テナントとして出店。エコステーションは専門店モールを管理する(株)レニウム企画(西武百貨店の関連会社、ISO14001を2000年7月に取得)との共同運営。

*2 愛知県岡崎市のイオン岡崎ショッピングセンター内に出店。廃棄物処理施設の運営はイオンモール(株)ISO14001を2001年4月に全事業所で取得。



店頭でいただいたお客さまの声を 社員一人ひとりが形にしようと取り組んでいます

🏠 お客さまとの接点で得られる実感を 社員への環境アンケートで把握

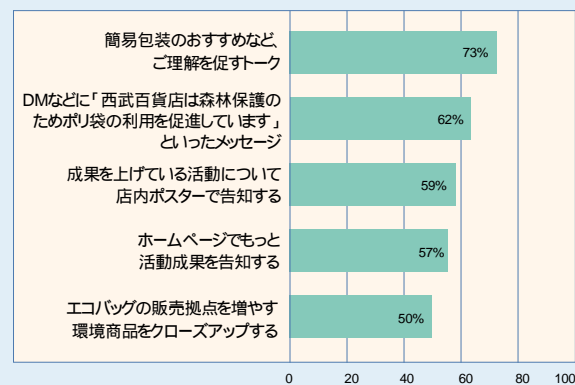
巨大な生産設備や工場をもたない百貨店業にとって、環境活動の推進は、社員一人ひとりの毎日の業務にどれだけ多くの環境保全につながる行動を組み込めるかにかかっています。そこで、環境教育や日常業務を通じて社員の環境意識はどのくらいのレベルになったのか、また、どの活動がお客さまによるこんでいただいているのか、どんな活動を期待されているのかなど、現場でお客さまと接するなかから感じとれる手応えを収集するため、従来行っていた層別環境教育の「自覚の確認」に加え、2001年から社員への本格的な環境アンケートを始めました。今回のアンケートでは、特に力を入れてきた簡易包装について、アンケートに回答をよせた8割以上の社員が「今後も重点的に取り組んでいくべき活動」として支持していることがわかりました。お客さまからのご要望やご意見、自分のアイデアが記入されたアンケート用紙も100枚を超えています。今後も社員の声を集め、商品企画や地域との取り組みなどに積極的に生かしていきます。

📄 ひとりの声からみんなの声へ 持ちやすい「マチ付きポリ手付袋」

適正包装の推進に向けて導入したポリ手付袋。2001年度には、「持ちにくい」というお客さまの声を受けて、箱入りなどの厚みのある商品が入れやすい「マチ付きポリ手付袋」が新たに用度品として採用されました。池袋西武の一社員の声によって明らかになったお客さまの声、それが社員アンケートに発展し(右グラフ)、多くの社員の声に裏付けられて実現したものです。その後、ほかの店舗にも希望する売場に順次導入されています。

社員「環境アンケート」(2001年10月実施、対象:全自社社員、回答者:5,324名)

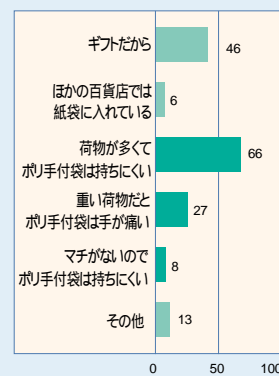
🗨️ お客さまに環境活動をもつとご理解いただくためには、
どのようにお知らせすべきですか?



池袋西武・適正包装アンケート

(2001年6月実施・部門ごと10名に配布/回収119名)

🗨️ お客さまが紙手付袋をご要望されときの理由は?
<複数回答>



持ち手部分も紐状に改良し、腕にかけられるようにしたマチ付きポリ手付袋。靴箱もすっぽり入る15センチのマチ幅でつくりました。

Column

池袋コミュニティ・カレッジで エコライフを楽しむための講座を開設

森に木を植える、自然観察を体験する、ものを大切に使う北欧のライフスタイルから学ぶ。環境への関心や知識を深めて、エコライフを楽しむことに興味をお持ちのお客さまに向けて、池袋西武の池袋コミュニティ・カレッジでは、「地球と人にやさしい暮らしを楽しもう」というテーマで2002年度から11の講座を開設しています。幅広いお客さま

に気軽にご参加いただけるように、1回で完結する講座も用意しました。レイチェルカーソン日本協会理事長・上遠恵子さんなど、環境問題への造詣が深い方々を各界から講師としてお招きしています。また夏休みには、映画監督・龍村 仁さんによる「こども環境セミナー」を設けて、親子で地球環境を学べる講座を企画しています。



龍村監督によるこども環境セミナー「ソウさん、クジラさんに教えてもらう地球環境のはなし」

どなたにとってもお買い物が楽しめる 安心・安全な店を目指しています

🏠 ハートビル法に準拠した バリアフリーの店舗設計

あらゆるお客さまが快適にショッピングを楽しめる。今後の百貨店づくりに欠かせない大きなテーマです。その一環として、東戸塚西武や岡崎西武の outlet にあたっては、計画の初期段階から「ハートビル法」に基づいた設計を行いました。この法律は、高齢者や障害をお持ちの方々にとって利用しやすい建築物について基準を定めたものです。車椅子の方でも動きやすい段差のないフロアや出入口、簡単にエレベーターの操作ができる低位置運転盤や点字付運転盤、店舗入口に設置した介助者呼出用のインターホン、ベビーカーごと入れるコンパートメント付トイレ、目の不自由な方のための点字ブロックなどを設置し、快適な店内環境づくりに努めています。

また既存店においても、改装の機会に設備の見直しを行っています。池袋西武では、2001年3月に地階入口を新装しましたが、その際に車椅子やベビーカーでも利用できるようにスロープを設置しました。



池袋西武地階入口の「クラブ・オンゲート」に設けられたスロープ。



東戸塚西武では、車椅子の方が利用できるように、段差がなく間口の広いフィッティングルームを設置しています。

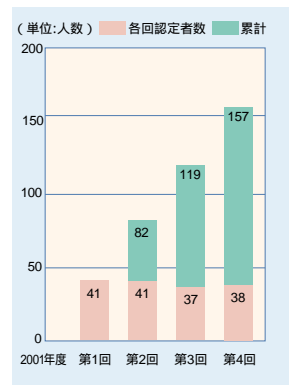
🏠 「ハートフルアドバイザー」を育成し お買い物のサポートに努めています

高齢者や障害をお持ちの方に、お買い物を十分に楽しんでいただくためには、接客サービスを行う販売員が介助に必要な知識と技術を身につけている必要があります。2001年から「財団法人総合健康推進財団」による民間資格「ハートフルアドバイザー」取得を目指す研修を実施し、店内のご案内や商品選び、試着など実践的なスキルを身につけた人材を育成しています。

2002年2月末までに、全店で157名のハートフルアドバイザーが誕生しました。「安心して快適なお買い物ができた」とお客さまからもご好評をいただいています。



ロールプレイングで、障害を持たれる方と同じ状況を体験しながら、お役に立てる接客方法を身につけていきます。



2002年度も年4回の研修・認定審査(各回定員50名)を実施します。

RM 安心・安全を支える 日常点検・緊急事態への対応

毎月1回「防災の日」を設けて防災訓練を実施しています。社員全員に年4回以上の参加を義務づけ、万一の場合にも冷静に適切な行動がとれる体制づくりを図っています。

また、危機管理上の特別重点項目として6項目を特定し、緊急事態が発生した場合の対応手順をマニュアル化しています。年1回、手順にそってテストを実施し、手順の有効性を確認し、マニュアルの精度を向上させ、さらに訓練を重ねています。

緊急事態への対応手順を マニュアル化している6項目

- 自家発電機の重油・ガス漏洩
- PCBの使用管理
- フロンの使用
- 水質汚濁
- ばい煙発生施設
- 防災に関わる運用



防災訓練

地域とともに取り組む環境活動を通じて 社会貢献に努めます

🏠 「子供たちの未来の森」をつくる 民間グループの活動を支援

1998年から池袋西武では「こどもと育てる未来の森 クマちゃんのどんぐりを育てようキャンペーン」を継続的に実施しています。これは、自然環境の保護と回復を目指す作家たちの団体「CCC自然・文化創造工場」の森づくりへの支援活動で、店内でこどもたちにどんぐりの実を配り、自宅で苗を育ててもらって植樹を行うものです。スタートから3年がたち、これまでに店頭で4,500名のお客さまに配布しました。高さ50センチ以上まで育てれば植樹ができます。

2001年10月に、最初の植樹が群馬県水上町奈良俣ダム上流の国有林で行われました。多くのご家族の手によって育てられた苗木400本が集められ、一本一本大切に植えられました。

このキャンペーンは、お子さまに自然の大切さを伝えるよい企画としてご家族からもご好評いただいております。今後も息の長い取り組みとして支援を続けていきます。

🏠 「ロイヤルフォレスト21キャンペーン」 を全店で実施

2001年12月、敬宮 愛子さまのご生誕を記念し、「ロイヤルフォレスト21キャンペーン」として「子供たちの未来の森」活動が全国規模で展開されました。西武百貨店では、全店のギフトセンター開設フロアで、苗木やどんぐりを配布しました。配布された苗木は全店で約6,000本。自宅で1年間、さらに大きく育てていただき、選定された全国5～6か所の植林場所に苗木を持ち寄り、植樹を行う予定です。

🏠 エコバッグの収益金の一部を 「地球環境基金」に寄付しています

おしゃれで使いやすいお買い物バッグを目標に開発された「西武オリジナルエコロジーバッグ」。ペットボトルのリサイクルから生まれた素材や用途に配慮した機能的なデザインなどにご支持をいただき、2001年度の販売枚数は2万193枚にのびりました。

このエコバッグの収益金から毎年100万円を「環境事業団地球環境基金」に寄付しています。同基金は、環境活動を行う国内の団体・NGOの活動を支援するもので、2002年4月9日で第2回目の寄付となりました。



どんぐりの苗を育てたご家族のなかから4組9名の皆さまも植樹に参加。



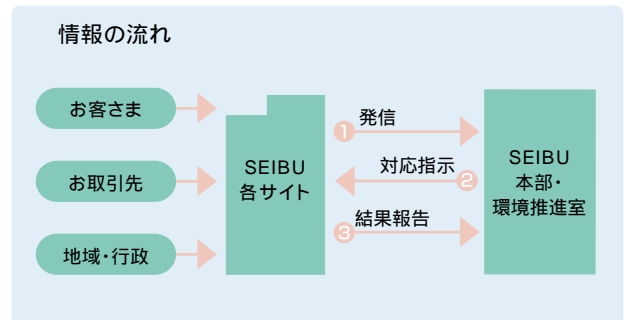
池袋西武では「ロイヤルフォレスト21」に際しても、こどもたちの人気者・お買い物クマちゃんが登場。ご家族づれをはじめ多くのお客さまに苗木をお持ち帰りいただきました。



寄付は西武百貨店の環境記念日である4月9日に行われました。贈呈式には社長・堀内幸夫(右)が出席し、「環境事業団」の田中理事長(左)に寄付金をお渡ししました。

🏠 社外からの情報を的確に受けとめ 地域活動への参加をスムーズに

環境コミュニケーションの輪をお客さま・お取引先・行政などと広げていくために、「環境情報通知書・対応書」という情報伝達の様式に基づいて、社外の環境情報を確実に収集・伝達・管理するように取り組んでいます。また、年1回、各サイトの店長・所長が地域の自治体や商店会などを訪問し、西武の環境活動へのご理解をいただく活動も推進しています。その成果は「通知書・対応書」の件数として表れ、2000年度の全サイト合計31件から2001年度の80件へと拡大。なかでも地域イベントや環境ネットワークへの参加要請をいただく機会が増えています。



各地域の環境イベント・シンポジウムへの参加

タイトル	主催	会期	内容	参画店舗
ア・ステ - in福井	福井県・福井市	2001年4月14日	環境保全活動の取り組みについて展示・発表	だるまや西武
なぎさエコライフ21	大津市	2001年7月～8月	滋賀県小売店環境保全連絡会に出展協力。環境への取り組みの展示・発表	大津西武
はこだて・エコフェスタ2001	函館市	2001年9月2日	環境保全活動の取り組みについて展示・発表	函館西武
とやま環境フェア2001	富山県・富山市ほか	2001年10月13～14日	県内の企業・団体とともに環境への取り組みの展示・発表	富山西武
秋田エコリサイクル・フェスティバル	秋田県	2001年11月17～18日	県内の企業・団体とともに環境への取り組みの展示・発表	ほんきん西武
公開講座「企業と環境」	大阪経済法科大学	2001年11月28日	大阪経済法科大学での公開講座で行政・市民・学生を対象に講演	八尾西武
エコプロダクツ2001	(社)産業環境管理協会・日本経済新聞社	2001年12月13～15日	エコスタイルフェアに初参加し、オリジナルエコロジーバッグや環境機器などの商品を紹介	本部
第36回船橋市生活展	船橋市	2002年2月6日～11日	市内消費者団体・企業・行政による「ゆとりある生活」をテーマとした研究発表の一環として環境への取り組みを紹介	船橋西武
環境シンポジウム2002	函館市	2002年2月25日	「ストップ・ザ・温暖化 見直そう私たちの暮らし」をテーマとしたシンポジウムにパネリストとして参加	函館西武

地域の環境活動・環境ネットワークへの参加

タイトル	主催	会期	内容	参画店舗
資源分別回収連絡会議	旭川市環境部 環境政策課	2001年8月～	事業系一般廃棄物の減量化と資源回収システムの普及拡大を図ることを趣旨として旭川市の主導で発足した連絡会議に参加し、古紙の分別回収をスタート	旭川西武
小学校の環境学習への協力	秋田市土崎小学校	2001年10月5日	社会科学習に店内を開放。職場見学の内容に環境活動を盛り込む	ほんきん西武
	尼崎市立塚口小学校	2001年10月15日	「わくわくタイム校区探検隊」環境学習の場として協力	つかしん西武
地域合同クリーニングキャンペーン	戸塚区・横浜市立川上北小学校・東戸塚西武	2001年10月25日	行政・小学校・東戸塚「オ・ロランティ」が合同で東戸塚駅周辺地域を清掃。東戸塚区役所に西武百貨店の環境活動を紹介したことがきっかけとなり実現	東戸塚西武
小学校のリサイクル研究へ学習材料提供	婦中町立音川小学校	2001年10月25日	ペットボトルのリサイクルに関する研究に、ペットボトルのリサイクル素材を使用した制服・エコバッグを提供	富山西武
こどもエコクラブ	東戸塚西武・所沢西武・船橋西武・ほんきん西武	2001年10月～	店舗の環境活動や施設をこどもたちに紹介する環境教育のためのオープンハウスプログラム。2001年度は2002年度の実施に向けた窓口開設まで	窓口開設店舗および本部
福井県環境ISOネットワーク	福井市	2001年10月～	ISO14001認証を取得あるいは取得予定の県内事業所によって構成される企業ネットワークに会員として参画	だるまや西武
ごみ減量とリサイクルに取り組むお店認定	八尾市	2001年11月23日認定	八尾市ごみ減量・リサイクル推進協議会の審査・認定を受ける	八尾西武
旭川市 環境にやさしい店登録制度	旭川市環境部 環境政策課	2002年2月1日制度開始	環境に配慮した事業活動に積極的に取り組む事業者を「環境にやさしい店」として登録し、行政が活動を応援し市民にPRしていく制度(2年ごとに活動報告義務付け)	旭川西武 現在申請中
渋谷区環境会議	渋谷区	2002年2月13日～	「私たちがつくる環境のまち渋谷」をテーマに、区民・事業者・団体・区をつなぐ交流の場として誕生した「渋谷区環境会議」に参加	シブヤ西武

その他 社会貢献活動

「よさこいピック高知」PR協力	高知県	2002年3月2日～11月11日	第2回全国障害者スポーツ大会「よさこいピック高知」の開催にあたり、催事場を特設イベントコーナーとして開放。高知市環境課の紹介による県ポランティア・NPOセンターとのタイアップにより実現	高知西武
-----------------	-----	------------------	--	------

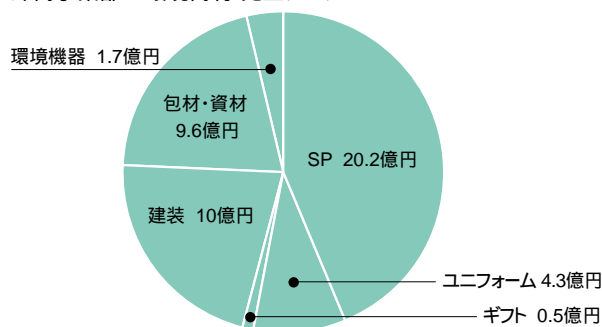
企業・団体のお客さまが抱える環境の課題を 6つの基本商材とネットワーク力で解決します

📁 外商事業部の環境ビジネス

外商事業部では企業や団体をお客さまとして、環境に配慮した企業活動をサポートするビジネスを展開しています。6つの基本商材(SP^{*}、ユニフォーム、ギフト、建装、包材・資材、環境機器)を駆使し、環境ビジネスにいち早く取り組んだ実績とネットワークを生かして、お客さまの抱える課題を解決するためのご提案をしています。ここ数年は、環境に関する法律が続々と施行されたこともあり、お客さまから着実でありながら即効性のある独自の解決方法を求められるケースが多くなりました。資源リサイクルによる再生素材の商品開発・プロデュースはもとより、ごみ処理機やそれを利用した循環型システムのコーディネートまで、幅広くお客さまの課題解決に努めた結果、2001年度の「環境商材の売上拡大」は、目標値である44億円を上回り、46億3,000万円の実績を残しました。

* セールスプロモーションに関わるノベルティやプレミアムグッズなどの販促品の企画・製作および記念品などを扱う領域

外商事業部の環境商材 売上シェア



お客さまからご相談いただいた環境に関する課題
2001年度多かったもの

- ごみの減容
- 汚泥の処理
- グリーン購入の推進
- 環境に配慮した素材への商品パッケージ変更
- 環境に配慮のあるノベルティ
- 生ごみリサイクルの仕組みづくり
- ユニフォームを再生素材に
- 環境に配慮した安全なギフトの選定
- エコバッグの製作

📁 循環型社会を目指す動きが活発化し 環境ビジネスが新たな展開に入った 2001年度

環境に関する各種法律の施行を受け、2001年度は2つの分野で集中的に強化を図るためのプロジェクトを立ち上げました。

包材・資材拡販プロジェクト.....ギフトパッケージ、ショッピングバッグ、POPなどについて、環境負荷の少ない素材・生産方法を提案し、メーカーなどの企業ニーズにお応えしました。

環境機器拡販プロジェクト.....ごみの減容、リサイクル、省エネルギーなどの循環型システムのご提案と環境機器販売を推進。他企業との提携によるリサイクルシステムの構築にも取り組みました(大阪ガスとのコ・ジェネレーションシステムによる生ごみ真空乾燥機導入など)。

📁 定期的な研修や展示会を通じて 情報を共有化

毎月1回、お取引先にもご協力いただき社内展示会を実施しています。外商事業部だけでなく、統合商品部をはじめとする本部各部門から社員が見学を訪れ、環境ビジネスの最新動向を吸収しています。2001年度上期は、「オレフィン素材」各種再生素材」を、下期は「生分解性プラスチック」「有機食品」を注目商材として特集。また、植物の葎でできたトレーや、ダンボール素材についての研修会も実施しました。



リサイクルペーパー、ジーンズのはぎれ、牛乳パックなどから生まれた再生素材によるパッケージや文具商品。デザインなどの付加価値が、今後のリサイクル商品の成長に不可欠であることを印象づけた展示会でした。

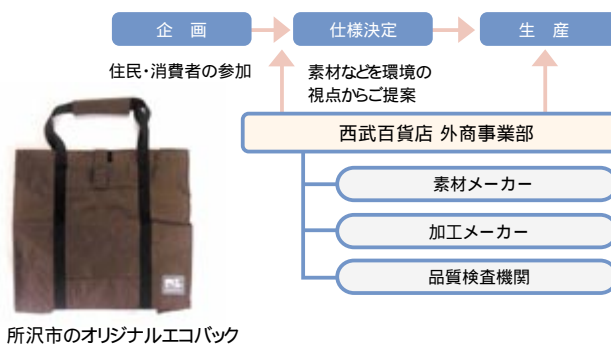


2001年5月に行われた葎を原材料としたトレーに関する研修会。

📁 ご要望をしっかりと受け止める体制を整えています

【エコバッグ】

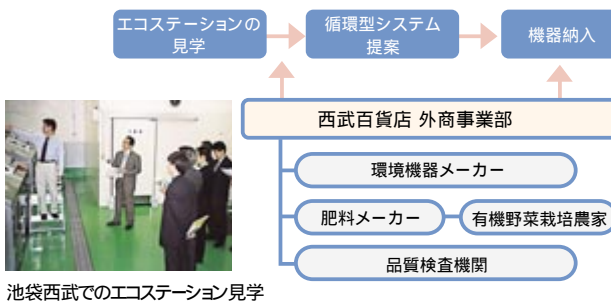
お店でごみの発生原因になる袋をもらわない、お買い物にはマイバッグで、という「マイバッグ運動」を推進している自治体は多く、その運動を盛り上げるためのエコバッグのご要望をいく度もいただいています。愛着をもって使っていただけるバッグをつくるためには、住民の方々に製作段階から参加していただくこと、一般の方にもわかりやすく素材や仕様をご提案し、確かな品質を提示できることが重要です。



所沢市のオリジナルエコバック

【環境機器】

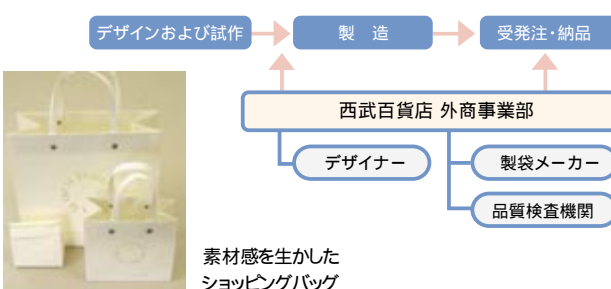
「食リサイクル法」への対応を中心に、生ごみ処理機や汚泥乾燥機、おからの乾燥機など、さまざまな機器を省エネの視点もふまえてご提案しています。西武百貨店の店舗にあるエコステーションをショールームとして活用し、お客さまには実際の稼働状況をお見せしたうえで循環型システムをご提案しています。
(2001年度ご見学者数:14法人・4自治体、合計54名)



池袋西武でのエコステーション見学

【包材・資材】

アパレルメーカーのお客さまから新たに展開する雑貨ショップのショッピングバッグを受注しました。素材は再生紙で、というお客さまからのご要望を前提に、アメリカ在住のデザイナーのディレクションのもとで製作しました。また、年間のギフト需要にそって、食品分野を中心にギフトパッケージの提案・拡販を行っています。



素材感を生かしたショッピングバッグ

【建装 / Knoll(ノール)】

外商事業部では、アメリカのノール社の家具を取り扱っています。ノールはアメリカでも早い時期にISO認証を取得した企業であり、椅子に再生PET素材のファブリックを使用する、家具の天板に端材を利用する、有害な塗料を使わないなど、商品のライフサイクル全体にわたる環境配慮を多く行っています。公共施設のロビーや、企業のオフィスシステムなど、高いデザインセンスを求められるお客さまに対し、こうした環境への配慮についてもご説明を心がけ、ノールの家具をおすすめしています。



オフィスシステム(レフシステム)。木製素材には流木などを利用しています。

環境目標と実績 < 1997-2000年度 >

環境目標は、西武百貨店の企業活動が環境に及ぼす影響を調査し、社会的な優先度や環境保全技術の進歩をふまえて決定しています。1998年から2000年度までは、環境マネジメ

ントシステムに基づき14項目を目標に設定し活動しました。第2中期計画の初年度である2001年度は、環境側面・目標設定を見直し、「6つの柱・10の取り組み」を目標として活動しました。

環境目的・目標			97年度	98年度	99年度	2000年度		
〔単位〕			実績値	実績値	実績値	実績値	97年度差	97年度比
廃棄物の削減およびリサイクルの促進	1	廃棄物総量〔t〕	27,866	24,944	23,754	23,130	4,736	83.0%
	2	リサイクル率〔%〕	21.3	28.6	34.1	39.1	17.8	183.6%
	3	統一ハンガーの利用率〔%〕	6.0	8.5	19.0	30.0	24.0	500.0%
省資源・省エネルギー	4	紙類使用量						
		コピー用紙・伝票・帳票〔t〕	478	396	304	155	323	32.4%
		手付袋・包装紙〔t〕	625	535	430	403	222	64.5%
		合計〔t〕	1,103	931	734	558	545	50.6%
	5	電力使用量〔MWh〕	303,899	289,165	284,206	292,243	11,656	96.2%
	6	重油使用量〔kℓ〕	2,731	2,207	2,006	1,965	766	72.0%
	7	水道水使用量〔km ³ 〕	3,437	3,139	2,960	2,694	743	78.4%
業務用出入り車両の削減	8	出入り車両(業務用)数(1日当たりの台数)〔台〕	3,646	3,231	2,900	2,812	834	77.1%
環境に配慮した商品の取り扱い拡大	9	選定基準商品の品揃え〔品目〕	0	62	134	212	212	-
	10	外商事業部の環境商材取り扱い高〔億円〕	15.0	22.5	28.3	42.4	27.4	282.7%
その他	11	廃材品のリサイクル	店舗リフレッシュおよびリニューアル時に、環境に配慮したお取引先との取り組みを実施・岡崎西武の開店において、廃材品の分別(金属板、木材、石膏ボード)とリサイクルの促進					
	12	防災訓練の参加率〔%〕	60.0	80.0	85.0	110.1	50.1	183.5%
	13	環境に配慮した素材の点検	古紙配合率・非木材紙の使用率拡大および環境ホルモン関連商品・消耗品の削減 ・手付袋の古紙配合率を30%から40%へ ・進物袋を非木材紙(パラス)に切り替え ・塩ビ・ラップフィルムを非塩素系素材へ ・販売員カード、社員バッジ、プライスカード入れなどを再生PET素材に切り替え					
	14	特定フロン使用機器	館内冷房機器〔台〕	20	17	16	15	5
食品用冷凍・冷蔵機器〔台〕			1,771	1,531	1,474	1,481	290	83.6%

<2001-2002年度> 2002年度は目標値

2001年度は10の取り組み項目のうち、3項目が目標未達成でした。「リサイクルの向上」……廃棄物総量の削減とともに分別の徹底によりリサイクル量を拡大し、同時にリサイクルアイテムの増加を図ります。「紙類使用量の削減」……管理手法と業務の見直しにより、コピー用紙の削減を重点取り組みとしなが

ら、店頭での簡易包装を進め、手付き袋・包装紙の削減を継続していきます。「車両による環境負荷低減」……納品代行の促進など、継続的に物流体制を見直し「業務出入り車両の削減」を図ります。「社有車の低公害車比率拡大」については基準を策定し計画的な車種変更を推進します。

印:達成、×印:未達成

環境目標 (単位)	2000年度実績 (基準値)	2001年度					2002年度			
		実績	目標値	前年比	達成度(目標差)	目標値	2000年度比			
1 廃棄物削減(実廃棄量) [t]	14,339	12,792	12,943	89.2%		151	12,267	85.5%		
2 リサイクルの向上(リサイクル率) [%]	39.1	42.7	43.6	109.2%	×	0.9	45.4	116.1%		
	リサイクル量 [t]	9,195	9,527	10,005	103.6%	—	478	10,189	110.8%	
3 紙類使用量削減	コピー用紙 [t]	175	165	163	94.4%	×	2.6	167	95.3%	
	手付き袋・包装紙 [t]	409	415	406	101.3%	×	8.7	370	90.3%	
	ポリ手付き袋 [t]	377	364	375	96.7%		10.7	352	93.3%	
4 水資源使用量削減 [ℓ(m ² ・h)]	28,284	25,937	27,268	91.7%		1,331	25,847	91.4%		
(下水道使用量原単位)	使用量 [km ³]	2,670	2,600	2,717	97.4%	—	116.8	2,629	98.5%	
5 電力使用量削減 [Wh(m ² ・h)]	3,047.12	2,999.11	3,010.57	98.4%		11.46	3,035.40	99.6%		
(電力使用量原単位)	使用量 [MWh]	291,907	298,091	301,352	102.1%	—	3,261.1	305,711	104.7%	
6 重油ボイラーの見直し	重油からクリーンエネルギーへ熱源の見直し(2002年度以降に具体的投資を目指し、計画を策定)									
7 車両による環境負荷低減	業務車両削減(1日当たり台数) [台]	2,812	2,680	2,550	95.3%	×	130	2,420	86.1%	
	低公害車拡大(保有率) [%]	50.0	33.3	64.3	66.6%	×	31.0	89.0	178.0%	
8 環境に配慮した商品提案の推進	環境選定商品拡大(品目)(品目数)	212	231	230	109.0%		1	280	132.1%	
	環境に配慮した容器・包装の整備	ギフトも含めた簡易包装基準の策定とツール整備(2002年度～)								
	環境に配慮した販売・表示方法の推進	商品適正表示小委員会による表示ルール策定と店頭展開(2002年度～)								
	環境商材売上(億円)(売上高)	42.4	46.3	44.0	109.2%		2.3	48.0	113.2%	
	エコバッグ売上拡大(千円)(売上高)	—	13,842	—	—	—	—	14,384	—	
9 リスクマネジメントの強化	防災訓練参加率拡大 [%]	110.1	113.1	100.0	102.7%		13.1	100.0	90.8%	
	フロン管理強化(特定フロン使用機器削減)	・売場改装などの機会に入れ替え ・日常管理の徹底								
	PCB管理の徹底	現在7店舗で保管しているPCB管理の徹底(PCB処理計画の検討、日常管理手順の見直し)								
10 地域社会との共生	店舗外周清掃の実施(回)(実施回数)	320	343	322	107.2%		21	345	107.8%	
	地域コミュニケーションの実施(企画)(企画回数)	—	—	—	—	—	—	50	—	

注)2001年度の目標設定見直しにより、目標の項目は同じでありながら2000年度実績値がP.17とP.18で異なっているものがあります。これらは集計範囲・方法の変更によるものです。

環境会計 < 2000-2001年度 >

環境会計の目的と考え方

環境対応の投資・経費とその効果を明確にし、経営指標の一つとする。
環境会計を通じて、環境保全活動について社会に理解を求める。
環境保全活動の費用対効果に主眼を置き、環境保全活動を環境負荷との関係から分類し、その費用と効果を集計する。効果については、金額とエネルギー・廃棄物など項目別の削減量を表記するとともに、一般家庭との比較など、CO₂排出量換算を併記し「わかりやすい環境会計」とする。

対象期間と集計範囲

2001年3月1日～2002年2月28日(財務会計と同一)

環境マネジメントシステムの対象となる全事業所の集計

定義と算定基準

投資および経費のなかで、環境保全に関わるものを環境保全コストとする。

環境保全活動を進めた結果、利益に貢献した効果を環境保全活動に伴う経済効果とする。(貨幣単位)

環境保全活動を進めた結果、環境負荷の低減に貢献した効果を環境保全効果とする。(物量単位)

環境保全活動に伴う経済効果は、収益または費用節減とし、費用節減は前期との単純比較により算定する。

環境保全効果は、投入(排出)量の削減量とし、前期との単純比較により算定する。

環境会計の集計結果に対する説明

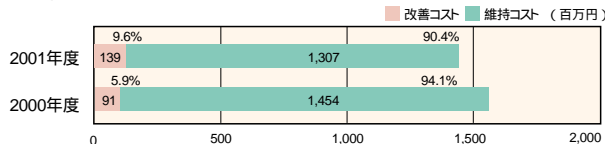
売上に占める環境保全コストと環境投資

毎年売上高の約0.3%を環境保全コストとして支出しています。また限られた環境対策費用をより効果的に活用するため、法規制の動向・老朽化による設備更新時期などを考慮し計画的な投資を行っています。2001年度の設備関連投資に占める環境投資の割合は20.6%で、食品リサイクル法対応として生ごみ処理機の導入などを行いました。

	2000年度	2001年度		2000年度	2001年度
売上比	0.33%	0.33%	環境投資の割合	21.9%	20.6%
環境保全コスト	1,922	1,863	環境投資額	266	227

改善コストと維持コスト(事業エリア内の環境保全コスト)

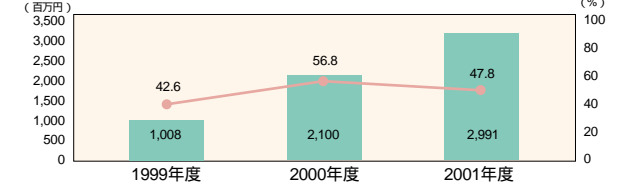
環境マネジメントシステムに基づく効果的な環境管理を行うことで、現状の管理レベルを低下させることなく、維持コスト(環境負荷を大きくしないためのコスト)を削減し、改善コスト(環境負荷を低減するためのコスト)を増やしています。2001年度の環境保全コスト全体に占める改善コストの割合は9.6%で、2000年度に比べて3.7%(48百万円)増加しました。



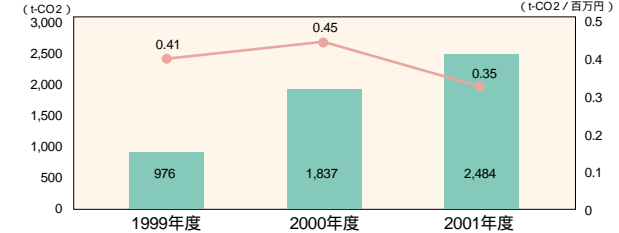
経済効率と環境負荷削減効率

2001年度までに、累積で2,991百万円の経済効果と2,484t-CO₂削減の環境保全効果がありました。環境保全活動の期間が進むにつれ環境保全コストに対する効果が出にくくなるため、経済効率(経済効果/環境保全コスト)・環境負荷削減効率(CO₂削減量/環境保全コスト)ともに低下傾向にあります。2000年度に効率が上昇していますが、これは自社ビル店舗の証券化に伴って費用の一部が信託会社の負担となったためです。

【環境保全活動に伴う経済効果と経済効率】



【環境保全効果と環境負荷削減効率】



分類別支出シェアの推移

グリーン購入調達、商品の環境配慮、緑化関連イベントなどの取り組みにより「上・下流」「研究開発」「社会活動」のシェアが増加しています。

	事業エリア内	上・下流	管理活動	研究開発	社会活動
2001年度	77.6%	18.4%	3.3%	0.06%	0.6%
2000年度	80.4%	16.2%	3.1%	0.007%	0.3%

法規制強化に伴うコストの増加

リサイクル関連の新規法規制への対応コストを増やしています。2001年度は食品リサイクル法・容器包装リサイクル法などの対応費用として約67百万円を計上しました。また老朽化による設備更新時期にあわせて外気冷房システムを導入するなど、省エネルギー法対応の省エネ投資も計画的に行っています。

【参考資料】

平成14年2月 環境省発行「環境会計ガイドライン2002年度版(公開草案)」

平成13年3月 環境省発行「環境会計ガイドブックI」第4章 流通ワーキンググループ報告

2001年度 環境保全コストの内訳

分類		投資	経費
公害防止	大気汚染防止	10	54
	水質汚濁防止	7	61
	土壌汚染防止	2	2
	騒音防止	8	23
	振動防止	2	2
	悪臭防止	11	33
	地盤沈下防止	0.3	0.3
	その他		25
	小計	36	200
	地球環境保全	地球温暖化防止・省エネルギー	53
オゾン層破壊防止		25	54
省資源		56	19
小計	134	170	
資源循環	廃棄物処理	5	709
	リサイクル	52	12
小計	57	720	
人件費		-	129
事業エリア内		227	1,219
グリーン購入		10	10
環境配慮商品販売		1	1
容器包装リサイクル		10	10
製品・商品等のリサイクル		1	1
人件費		-	320
上・下流			342
環境マネジメントシステム運用		3	3
環境情報開示		7	7
環境教育		2	2
事業所周辺の美化・緑化		0.2	0.2
人件費		-	50
管理活動		62	62
環境配慮商品の開発		-	0.6
環境に配慮した販売方法の開発		-	0.4
人件費		-	0.2
研究開発		-	1
事業所・事業所周辺以外の緑化		7	7
環境保全を行う団体に対する寄付・支援		1	1
地域住民の行う環境活動支援・情報提供		2	2
人件費		-	1
社会活動		-	11
環境損傷		-	-
合計		227	1,636

太字は2000年度より大きく増加した費用 ()内は2000年度実績

単位:百万円

分類	主な環境保全活動	関連事項	環境保全コスト		環境保全活動に伴う経済効果(貨幣単位)	環境保全効果 (物量単位)		
			投資	経費			CO ₂ 排出量換算	
事業 エリア内	【設備対策】 ・リサイクル推進(生ごみ処理機導入) ・省エネ(外気冷房、低公害車導入等) ・節水(トイレ観音装置・節水器・減圧弁導入) ・リスク管理(特定フロン使用機器入れ替え)	P.10	227 (266)	1,219 (1,279)	237 (494)	【投入する資源に関する効果】 コピー用紙 10t (149t) 直径14cm x 高さ8m樹木 217本分 (3,311本分) 包装紙・手付袋 新規出店分を除く 1t (27t) 直径14cm x 高さ8m樹木 27本分 (600本分) 電力使用量 営業機会拡大・新規出店分を除く 3,570MWh (5,999MWh) 一般家庭 1,026世帯分 / 年 (1,724世帯分 / 年)	CO ₂ 排出量換算	
	【廃棄物対策】 ・適正計量と処理(廃棄物計量機の導入拡大、処理委託、マニフェスト管理、保管基準遵守) ・リサイクル推進(ミックスペーパー拡大) ・リスク管理(PCB適正保管)	P.12	・生ごみ処理機導入 ・外気冷房システム導入 ・トイレ観音装置設置 ・特定フロン使用機器入れ替え ・省エネタイプ誘導灯設置 ・排気ファンインバーター設置 ・給水減圧弁設置 ・雑排水槽ばっ気装置設置 ・人件費 など	・施設設備メンテナンス費用 ・廃棄物処理費用 ・廃棄物計量機リース費用 ・法規制対応費用 ・人件費 など	【内訳】 収益 63 (1) ・リサイクルアイテムの売却額 費用節減 175 (493) ・電気料 ・水道料 ・廃棄物処理費用 ・コピー費用 ・包装紙・手付袋の購入費用 ・施設設備メンテナンス費用 ・ガソリン使用料 など			
	【物流対策】 ・リサイクル推進(折りたたみコンテナ、百貨店統一ハンガー利用促進) ・集約化・平準化(納品代行、夜間納品拡大)	P.10 P.12						
	【全社員運動】 ・リサイクル(分別の徹底) ・廃棄物削減(両面コピー・片面使用済み紙の再利用) ・省資源への呼びかけ(簡易包装、ポリ手付袋使用による中間包材の使用削減) ・省エネ(階段の2up3down、社内公募の節電プレートによるこまめな消灯)	P.9 P.9						
	【グリーン購入】 ・社内の再生PET使用(ユニフォーム、名札、販売員カードなど) ・販促ツールでの再生PET・MDF・生分解性樹脂の使用(POP・サインボール・パネル・陳列什器・ダイレクトメール封筒)	P.10 P.12						
	【環境人材の法人向けプレゼンテーション・販売】 ・LCA考慮設計のノベルティ、再生素材ユニフォーム、リサイクルリユース素材の建築	P.9 P.9						
	【店頭での環境選定基準商品・サービス販売】 ・OAO・有機JAS商品の品揃え拡大 ・エコバッグのすすめPOP、販売 ・環境講座の開講案内	P.10 P.12						
	【店頭から発生するリサイクル】 ・容器回収(牛乳パック、ペットボトル、トレイ) ・容器包装リサイクル法対応 ・回収処理済み商品券(トイレトペーパー化)	P.10 P.12						
	【環境マネジメントシステム運用】 ・ISO14001に基づく運用と改善	P.10 P.12						
	【環境教育】 ・入店時研修・個別教育・環境デー教育 ・内部監査員研修・スキルアップ研修	P.10 P.12						
【環境情報の開示】 ・環境活動報告書の発行 ・環境広告制作(簡易包装がスター)	P.10 P.12							
【事業所周辺の美化・緑化】 ・店舗外清掃(全店・事業所) ・敷地内緑化(函館西武「花と緑のプロジェクト」)	P.10 P.12							
上・下流	【環境マネジメントシステム運用】 ・ISO14001に基づく運用と改善	P.11	0 (0)	342 (311)	653 (598)	【内訳】 収益 653 (598) ・環境機器の売上利益 ・エコバッグの売上利益 費用節減 0.3 (0) ・回収処理済み商品券の処分費用	水道使用量 営業機会拡大・新規出店分を除く 152km ³ (277km ³) 50mプール 61個分 (111個分) ガソリン使用量 5kℓ (12kℓ) 重油使用量 (78kℓ)	24t (43t) 3t (8t) (57t)
	【環境教育】 ・入店時研修・個別教育・環境デー教育 ・内部監査員研修・スキルアップ研修	P.11						
	【環境情報の開示】 ・環境活動報告書の発行 ・環境広告制作(簡易包装がスター)	P.11						
管理活動	【環境配慮商品・サービス開発】 ・エコバッグ、環境講座(コミュニケーション)	P.8-11	0 (0)	62 (59)	0 (0)	ごみ総量 1,215t (624t) 4t車 304台分 (156台分) リサイクル率 3.6% (5.0%) 【輸送に関する効果】 業務用出入り車両数 48千台 (32千台) 折りたたみコンテナ利用数 4千個 (25千個) 百貨店統一ハンガー利用数 7千本 (142千本)	292t (150t)	
	【廃棄物削減に向けた用品開発】 ・靴用マチ付きポリ手付袋	P.8-11						
	【顧客ニーズ調査】 ・環境配慮商品開発のためのWebアンケート	P.8-11						
研究開発	【環境配慮商品・サービス開発】 ・エコバッグ、環境講座(コミュニケーション)	P.8-11	0 (0)	62 (59)	0 (0)	ごみ総量 1,215t (624t) 4t車 304台分 (156台分) リサイクル率 3.6% (5.0%) 【輸送に関する効果】 業務用出入り車両数 48千台 (32千台) 折りたたみコンテナ利用数 4千個 (25千個) 百貨店統一ハンガー利用数 7千本 (142千本)	292t (150t)	
	【廃棄物削減に向けた用品開発】 ・靴用マチ付きポリ手付袋	P.8-11						
	【顧客ニーズ調査】 ・環境配慮商品開発のためのWebアンケート	P.8-11						
社会活動	【緑化支援活動】 ・クマちゃんのどんぐりを育てようキャンペーン植樹(池袋西武) ・愛子さまご生誕記念「ロイヤルフォレスト21」	P.13	0 (0)	11 (6)	0 (0)	ごみ総量 1,215t (624t) 4t車 304台分 (156台分) リサイクル率 3.6% (5.0%) 【輸送に関する効果】 業務用出入り車両数 48千台 (32千台) 折りたたみコンテナ利用数 4千個 (25千個) 百貨店統一ハンガー利用数 7千本 (142千本)	292t (150t)	
	【環境イベントへの出展】 ・地域フェア(富山・函館・秋田)・エコロダクツ	P.13						
	【寄付・募金活動】 ・エコバッグ収益金(一部 地球環境基金に寄付) ・使用済みプリペイドカード回収	P.14						
	【顧客ニーズ調査】 ・環境配慮商品開発のためのWebアンケート	P.13						
環境損傷	-	-	-	-	-	-	-	
合計			227 (266)	1,636 (1,656)	891 (1,092)		647t (861t)	

環境省「環境会計ガイドライン 2002年度版(公開草案)」を参考にし、2000年度の環境情報の開示、環境広告、事業所周辺の美化に関する費用は、社会活動コストから管理活動コストへ変更しています。業務用出入り車両数削減によるガソリン使用量の減少については、算定根拠に推定的な要素が含まれるため、1999年度・2000年度の集計結果から削除しています。したがって、「2001年度環境活動報告書」の記載と異なります。2001年度の「重油使用量の減少」については、重油使用に関する取り組みを使用量削減から熱源の見直しに変更しているため、環境保全効果に算入していません。

ISO14001 第1回更新審査報告

登録範囲：マルチサイト(全店、全事業所)

審査対象：社長、環境管理責任者、環境推進室、川崎西武、函館西武、シブヤ西武、有楽町西武、札幌西武、朝霞センター、静岡西武、ほんきん西武、池袋西武、西武・十合統合商品部、岡崎西武、アムス仙台西武、商品管理部、外商事業部、高槻西武、関西外商部、筑波西武、富山西武、八尾西武 <審査順>

審査日程：2002年3月26日～29日(10.5人/日)

審査員：財団法人日本品質保証機構(JQA)

主任審査員 松本壯二郎

審査員 有浦俊典・三浦裕之

変更点：登録範囲に含まれる東海営業部と名古屋営業部を統合し、東海営業部となった。

審査結果：ISO14001および西武百貨店環境マネジメントシステム要求事項に対し、改善指摘事項0件、ストロングポイント3件、改善の機会19件。登録更新を認定。(2002年4月9日更新)

主任審査員 所見

環境経営度調査非製造業部門で第1位

2002年3月26日から29日までISO14001規格の審査を実施しました。1999年4月9日に百貨店業界で初めて認証を取得されて以来、1年ごとの定期審査を経て、本年は3年目にあたり更新審査を実施し、1回目の登録更新となりました。

(株)西武百貨店は、2001年12月に発表された日本経済新聞社の第5回「環境経営度調査」において、非製造業部門首位になっており、そのランキングに値する活動内容でした。ただし、その結果を社内では非常に謙虚に受け止めておられ、社長へのインタビューでも「まだまだ未熟な当社が環境経営度調査で首位をいただくのは早すぎる。全社員が力をあわせて環境活動への真摯な取り組みを継続し、定着させるための努力を続けている段階です」というコメントをされていました。

更新審査で特に印象深かった点は、第1次中期計画(1998-2001)、次の第2次中期計画(2001-2003)を通じて継続的改善の思想が着実に浸透し、展開が図られている点でした。

循環型社会の推進

今回は更新審査ということで、2001年度の活動だけではなく、環境マネジメントシステム導入からの3年間の成果についても点検をさせていただきました。環境パフォーマンスについても大きな成果を上げています。特筆すべき改善状況として、コピー用

紙・伝票・帳票使用量68%減 環境商品選定231品目 出入車両数30%減(改善状況は1997年度を基準に2001年度実績)などがあげられます。また、利害関係者とのコミュニケーションに関する処置の状況も良好で、適切に情報が整理区分されており、またその情報を活用しよう心がけている事に感心しました。

また、循環型社会の推進に積極的であることが、「ごみを出さない」「再利用・リサイクルの促進」「廃棄物のリサイクル化」「生ごみ処理機の導入および展開」「環境配慮型商品の展開」などの各店、各事業所の活動から確認されました。

今後の活動への期待

更新審査では改善指摘事項は1件もありませんでした。堀内社長をはじめとして、各サイトの皆さまは、熱意と信念を持って環境活動を継続されており、口々に環境マネジメントシステムを導入して良かったとおっしゃってくださいました。これは審査員として本当にうれしいことです。

(株)西武百貨店の皆さまに次の段階として期待することは、第1にPDCAサイクルの「C」と「A」の強化です。今後さらなる改善により、ますますシステムの定着が進むこと、およびそのシステムを使い成果を上げることがを願います。第2に、今後は自社内だけでなく、百貨店の本業である「小売の現場」において、環境商品を通じてお客さまにご理解をいただきながら環境活動を着実に進めていただくことが、ますます重要ではないかと思えます。自ら課題とされていた環境活動を営業活動の根幹に組み入れ、お客さまへのサービスに結び付けていくという目標についても次回の定期審査で成果を見せていただけることと思えます。皆さまの努力が社会全体の環境保全活動への貢献につながっていくことを期待しております。貴社のますますの発展を祈念いたします。

財団法人日本品質保証機構(JQA)

ISO審査本部主任審査員 松本 壯二郎



環境活動のあゆみ <1990-2001年度>

*2002年4月までの活動を含む

1990年7月	簡易包装の取り組み開始、社内用度品を再生紙に
1991年5月	紙ごみ分別回収開始
1992年8月	「西武百貨店エコロジーハンドブック」発行 独自の「環境商品基準」に基づいた環境商品にアイキャッチマーク(エコノザウルス)表示
1995年3月	関東圏10店舗で「ハンガー納品」システム導入開始
1996年2月	外商事業部でペットボトルのリサイクルビジネス開始
1998年3月	社内報で環境についての連載開始
4月	ISO14001規格認証取得に向けた活動を開始
6月	環境庁主催「エコライフ・フェア'98」出展
9月	「環境方針」制定
11月	環境アイキャッチマーク社内公募
1999年4月	ISO14001規格認証取得(4月9日)
5月	全店の店頭にお客さま用3分別ボックス設置
6月	環境庁主催「エコライフ・フェア'99」出展 「環境にやさしい製品展」出展(旭川市)
7月	「エコアクション・さっぽろ'99」(札幌市)
10月	東戸塚西武開店(エコステーション設置) 「'99とやま環境フェア」出展(高岡市)
2000年2月	「第34回船橋市生活展」出展(船橋西武特別催事場)
3月	環境プロジェクトを解組、環境推進室を新設 西武百貨店「環境記念日」(4月9日)制定
6月	「西武オリジナルエコロジーバッグ」販売開始 環境庁主催「エコライフ・フェア'00」出展
8月	沼津市・沼津西武共催「エコライフ・フェア2000」
9月	オーガニック食品「OAO」販売開始 「環境活動報告書2000」発行。環境会計を掲載 岡崎西武開店(イオンSCに生ごみ処理機導入)
2001年4月	西武百貨店「環境記念日」に「西武オリジナルエコロジーバッグ」収益金の一部を地球環境基金へ寄付 「アースデー in 福井」出展(福井市)
8月	「環境活動報告書2001」発行
9月	「はこだて・エコフェスタ2001」出展(函館市)
10月	「環境にやさしい買い物キャンペーン」開催。葉の形のシールで「包まないという地球へのおもいやり」を呼びかけ 「くまちゃんのどんぐりを育てようキャンペーン」第1回目の植樹 「とやま環境フェア2001」出展(富山市)
11月	池袋西武エコステーション開設(生ごみ処理機導入) 「秋田エコ&リサイクル・フェスティバル」出展(秋田市)
12月	敬宮愛子さまご誕生記念「子供たちの未来の森」苗木配布 「エコプロダクツ2001」出展
2002年4月	西武百貨店「環境記念日」に「西武オリジナルエコロジーバッグ」収益金の一部を地球環境基金へ寄付

会社概要

本社所在地	郵便番号171-8569 東京都豊島区南池袋1-28-1
本部所在地	郵便番号171-8530 東京都豊島区南池袋1-16-15 西武池袋ビル
代表者	代表取締役会長 / 松本康太郎 代表取締役社長 / 堀内 幸夫
設立	1940年3月14日
資本金	8,912百万円
業績	

単位:百万円

	売上高	営業利益	経常利益
2000年2月期	576,129	13,632	3,854
2001年2月期	565,221	12,319	4,057
2002年2月期	558,974	12,713	6,618

商品構成	ファッション関連:60.3% 雑貨・インテリア関連:14.8% 食料品:17.9% その他:7.0%(2002年2月期実績)
------	---

事業所数

	本部	店舗	外商事業部	海外駐在事務所	物流センター
2002年2月期	1	25	7	3	2

従業員数

	本社員	パートタイマー(換算人員)
2000年2月期	6,223人	3,379人
2001年2月期	5,854人	3,597人
2002年2月期	5,308人	3,692人

関連会社	朝日工業(株)、朝日食品工業(株)、(株)池袋ショッピングパーク、(株)イルムスジャパン、(株)エフ、(株)エルビス、(株)大沢商会、(株)環境科学コーポレーション、(株)キャリアオン、(株)シェルガーデン、(株)西洋ランドシステムズ、(株)デ・グリフ・クラブ、(株)葉山マリナー、(株)ビジネスシステムエージェンツ、(株)ピサ、(株)ファブリカ、(株)ファミリイ西武、(株)ポロ・ラルフ ローレン ジャパン、(株)ミレニアム企画、(株)ハケ岳高原ロッジ、(株)リパティジャパン、(株)ロフト <五十音順>
------	--



JQA-EM0401

西武百貨店は、環境にやさしい企業活動を心がけ、お客さまや地域・社会とともに豊かな社会づくりに取り組むため、ISO14001規格に基づいた世界標準の環境マネジメントシステムを導入しています。

「ISO14001」規格認証(マルチサイト方式)登録サイト

【店舗】

池袋西武	郵便番号171-8569 東京都豊島区南池袋1-28-1 電話03(3981)0111大代表
シブヤ西武	郵便番号150-8330 東京都渋谷区宇田川町21-1 電話03(3462)0111大代表
有楽町西武	郵便番号100-0006 東京都千代田区有楽町2-5-1 電話03(3286)0111大代表
船橋西武	郵便番号273-8550 千葉県船橋市本町1-2-1 電話047(425)0111大代表
所沢西武	郵便番号359-1198 埼玉県所沢市日吉町12-1 電話042(927)0111大代表
宇都宮西武	郵便番号320-8535 栃木県宇都宮市馬場通り2-3-12 電話028(632)0111大代表
筑波西武	郵便番号305-8508 茨城県つくば市吾妻1-7-1 電話0298(51)0111大代表
川崎西武	郵便番号210-8578 神奈川県川崎市川崎区日進町1-11 電話044(245)0111大代表
東戸塚西武	郵便番号244-8530 神奈川県横浜市戸塚区品濃町537-1 電話045(827)0111大代表
静岡西武	郵便番号420-8555 静岡県静岡市紺屋町6-7 電話054(274)0111大代表
沼津西武	郵便番号410-8570 静岡県沼津市大手町3-1-1 電話0559(61)0111大代表
豊橋西武	郵便番号440-0888 愛知県豊橋市駅前大通り1-43 電話0532(53)2111大代表
岡崎西武	郵便番号444-8710 愛知県岡崎市戸崎町字外山38-5 電話0564(59)0111大代表
高槻西武	郵便番号569-1196 大阪府高槻市白梅町4-1 電話0726(83)0111大代表
八尾西武	郵便番号581-8680 大阪府八尾市光町2-60 電話0729(97)0111大代表
大津西武	郵便番号520-8580 滋賀県大津市におの浜2-3-1 電話077(521)0111大代表
つかしん西武	郵便番号661-0001 兵庫県尼崎市塚口本町4-8-1 電話06(6420)0111大代表
高知西武	郵便番号780-8531 高知県高知市南はりまや町1-8-1 電話088(883)0111大代表

だるま西武	郵便番号910-8582 福井県福井市中央1-8-1 電話0776(27)0111大代表
富山西武	郵便番号930-8503 富山県富山市総曲輪3-4-15 電話076(492)0111大代表
札幌西武	郵便番号060-8555 北海道札幌市中央区北4条西3丁目 電話011(251)0111大代表
旭川西武	郵便番号070-8507 北海道旭川市1条通り8丁目右1号 電話0166(21)0111大代表
函館西武	郵便番号040-0015 北海道函館市梁川町9-3 電話0138(54)0111大代表
ams仙台西武	郵便番号980-8489 宮城県仙台市青葉区中央1-10-10 電話022(264)0111大代表
ほんさん西武	郵便番号010-8505 秋田県秋田市中通2-6-1 電話018(832)5111大代表

【本部】

西武百貨店本部	郵便番号171-8530 東京都豊島区南池袋1-16-15 西武池袋ビル 電話03(3989)0111大代表
---------	---

【外商事業部 地域営業部】

ノール部	郵便番号100-0005 東京都千代田区丸の内3-1-1 国際ビル 電話03(3213)6767大代表
関西外商部	郵便番号532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島5-10-15 西武新大阪ビル 電話06(6305)7322大代表
千葉営業部	郵便番号260-0021 千葉県千葉市中央区新宿2-5-19 住友生命ビル3F 電話043(244)7771大代表
東北営業部	郵便番号980-0021 宮城県仙台市青葉区中央4-1-26 レインボービル4F 電話022(262)1850大代表
東海営業部	郵便番号452-0002 愛知県名古屋市中村区名駅3-14-16 東洋ビル9F 電話052(583)4717大代表

【物流センター】

朝霞センター	郵便番号351-0014 埼玉県朝霞市膝折町2-16-1 電話048(462)4551大代表
門真センター	郵便番号571-0006 大阪府門真市大字上馬伏346-1 電話072(886)2001大代表

お問い合わせ

2002年6月27日発行(次号は2003年6月発行予定)

西武百貨店 環境推進室

郵便番号171-8530 東京都豊島区南池袋1-16-15 西武池袋ビル
電話03(5396)3208 ファックス03(5396)5206
西武百貨店ホームページ <http://www.seibu.co.jp>



本誌はエコマーク認定の再生紙・大豆油インキを使用し、再生可能です。